

# 米欧亜回覧

第47号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集 総務部会

## 本会事務所、

## サンシャインビル四十五階(池袋)に移転!

かねて懸案だった都心に新事務所を移転する件については、幹事の間で検討を重ねてきたが、今回諸般の事情から、七月十七日を期して、新時代の「バーチャルオフィス」を開設することになった。

ついては、今後、会への連絡、問い合わせその他は、すべて左記事務所へお願いする。専用の部屋や事務機など、物理的な空間は存在しないが、電話、ファックス、郵便すべてを新事

務所が受け取り一括管理することになる。連絡や郵便物などがあれば「米欧亜回覧の会」として対応し、直ちに当会の担当に転送等をしてくれる「バーチャル」な事務所である。

当面二ヶ月ばかりを試用期間とし、不都合のある場合修正を加えながら、その後本格的に稼働の予定です。どうぞよろしくお願いします。  
なお、メールは従来と同じアドレスである。

サンシャイン60ビル



新事務所 (7月17日より)

〒170-6045

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60 45階

「米欧亜回覧の会」

電話番号：(03) 5979-2273

FAX番号：(03) 5979-2552

e-mail

info@iwakura-misson.jp

今、昭和史の失敗から

何をまなぶべきか、

七月十四日、

保阪正康氏 講演!

保阪正康氏は、近著だけでも十冊以上あり、マスコミでも引つ張りだこの超多忙な方、そのため当会の会員であるにも関わらず出席率は悪く、ほとんどの人が会員であることを知らないという会員です。保阪氏は、今回のテーマについて、こう語っています・・・

「失敗」と「成功」の意味をはっきりさせ、それは国民的格のなせる業か、それとも一時的な変調なのか、など多様な視点で考えるべきことを訴えたい・・・

なお、保阪氏は二次会にも出席されますので、医療問題、尊厳死問題のお話もうかがえるかも知れません。どうぞご期待下さい。

### 四月全体例会・総会開催

第四十三回の全体例会が、四月二十一日(土)午後一時より国際文化会館講堂において開催された。NPO法人となって三回目の総会を兼ね、活動報告、会計報告や事業計画が承認された。

また、本会の運営および今後の活動について、ブンブンミーティングが行なわれ、多様な提起および指針が討議された。

(詳細は二〜五頁)

岩倉使節団は、申すまでもなく、一八六〇年の咸臨丸に始まる海外視察やそれに続く多くの海外留学の歴史に支えられていた。幕府は開国に踏み切つて以来、主な使節だけでも六回も欧米に派遣しており留学生も多く出している。しかし、それが結局幕府自身の命脈を短くし、つまるところは薩長主導の明治維新となり岩倉使節団の派遣にいたるのだ。

### 十年の重み 咸臨丸から岩倉使節団まで

泉 三郎

に終わる。ところがこの船には薩摩の五代友厚、長州の高杉晋作などが幕吏の従者として参加していた。そして、この従者に身をやつした志士たちが西洋文明のモデルともいべき上海を目の当たりに見て決意するのだ。その結果、長州は一八六三年に井上馨、伊藤博文をはじめとする五人の留学生を派遣し、一八六五年には薩摩が森有礼、鮫島尚信、吉田清成、島山

その様子を一覽できる格好の書が、先に本誌でも紹介した新人物往来社刊行の別冊歴史読本「世界を見た幕末維新の英雄たち」咸臨丸から岩倉使節団までである。この本は、幕末から維新に掛けての様々な使節団、各種の留学生まで網羅しており、貴重な肖像写真がふんだんに盛り込まれていてまことに興味深い。

その中でもひととき興味深く感じたことが二つある。一つは一八六二年の千歳丸による上海派遣である。これは幕府が貿易を目論んで派遣したもので、石炭、薬用人参、イ

リコ、乾アワビ、昆布、漆器をのせていた。当時日本から輸出できそうなものはそんなものだったのだろう。ところがほとんど商売にならず失敗

のである。薩摩はあたかも独立国の如く幕府の向こうを張り「琉球王国」として出品し、幕府を顔色なさしめる。それを演出した若き薩摩のサムライたちが意気軒昂たる洋服姿で映っている。

上海派遣団から岩倉使節団まで十年、最初は幕府主導だったものが、すっかり逆転して薩長主導になっていく。激動期の十年がいかに重いかを改めて考えさせてくれる。

第43回 全体例会

四月二十一日開催  
総会と熱心なブンブンミーティング



4月21日・平成19年度例会(総会)

平成十九年度第一回の例会は、四月二十一日(土)午後一時より国際文化会館講堂において開催された。

▼総会▲

例年、年度第一回目の例会は総会をかねることとなっているため、開会に先立ち出席者の確認が行われた。会員数は、正会員百八十四名、準会員八名、計百九十二名、出席者は三十三名(うち準会員一名)、委任状八十二名、計百十五名で総会は無効に成立した。

まず、議長に泉理事長を選出、議事に入り、山田事務局長から、①役員重任の件、②平成十八年度の会務ならび事業全般の活動報告(二、三頁

▼ブンブンミーティング▲

総会後、本会の運営および今後の活動について先般実施したアンケート結果も参考にしながら、ブンブンミーティングを行い、会員から建設的かつ多様な問題提起および活動指針が提案・討議され、有意義な討論会となった。左記のアンケート結果を参

に掲載)、収支計算書および貸借対照表の会計報告、平成十九年度の事業計画および予算の件(以上の諸表は四、五頁に掲載)について一括して報告および説明があり、承認された。なお詳細については掲載の資料および内容説明をご参照ください。

また、各部会幹事より十八年度部会活動報告および今年度活動方針について報告がありそれぞれ承認された。さらに、十八年度の特別企画として行われた、国際シンポジウムについて、入場者数、収入・支出など概要報告、および成果取りまとめなどの今後活動内容の報告、グローバルジャパン特別研究会についても、その後の活動および今後の活動内容など報告があった。

(平成18年4月～平成19年3月)

	総務部会 歴史の旅・メディア・その他	関西支部	グローバルジャパン研究会	国際部会
2006 4月	ニュース42号(4/15) メルマガジン10号(4/2)	例会(4/18)		
5月	薩摩歴史ツアー(5/18～20) メルマガジン11号(5/3)			「岩倉使節団と日本の近代化」コルカット氏 「タゴールの日本の近代化への観察」マーリック氏(5/11)
6月	ニュース43号(6/20) メルマガジン12号(6/4)			
7月	メルマガジン13号(7/3) 「岩倉使節団の米欧回覧」 DVD2巻セット発売	例会(7/26) 米国編		「フランス人権宣言」と「明治維新5箇条のご誓文」 イルマン・ジュール氏(7/13)
8月	メルマガジン14号(8/1) 日本記者クラブ主催(8/26) 「映像DVD試写会」		「ホール・クロードルが見た美しき日本」 芳賀徹氏(8/22)	
9月	ニュース44号(9/20) メルマガジン15号(9/1)		「世界の中の中国と日本」 国分良成氏(9/13)	
10月	ホームページリニューアル(10月) メルマガジン16号(10/5)	例会(10/11) 米国編	「共生の思想」松本健一氏(10/4) 「EAST AND WEST」石坂芳男氏 (10/10)	「平成の岩倉使節団報告」 橘幸信氏(10/21)
11月	メルマガジン17号(11/4)		「キリスト教と近代化」 山崎渾子氏(11/2)	
12月	ニュース45号(12/25) メルマガジン18号(12/14)		「日本において近代を超越するとは どういう意味か」吹田尚一氏(12/13)	
2007 1月	メルマガジン19号(1/1)	例会(1/23) 新年懇親会		
2月	メルマガジン20号(2/6)		「貧欲から知足へ大転換 一仏教経済思想に立つて」安原和雄氏 (2/20)	
3月	メルマガジン21号(3/6)		「岩倉使節団が平成日本に 問いかけるもの」泉三郎氏(3/26)	



ブンブンミーティング

考に、五つのテーマごとに興味のあるテーブルに分かれて、意見や感想を述べた。このブンブン方式は全員が何らかの形で参画ができるのが利点であり、企画面はむしろ、運営方法、資金面その他いろいろな面から、前向きな意見が出されて有意義だった。

なお、「米欧回覧実記を読む会」は既に百回をこえ、「英文実記を読む会」も五十回に及んでおり、本会の基本をなす部会である。「実記を読む会」は、最近、「実記」の背後にあるものまで読み取るうという姿勢が顕著で、発表者がそれぞれの興味に従って蘊蓄を傾け、毎回熱気のある会になっているから、新入の会員は手始めにこの部会をのぞいてもらうことが望ましい。かつてある会員が「回覧記 汲めどもつきぬ 泉かな」という川柳を詠んだが、まさ



報告する  
山田事務局長

に「実記」はエンサイクロペディア的であり、十年経っても飽きさせぬ貴重な素材であることを物語っている。

【アンケートの集計結果】

- 一 現在行っているどの活動に興味がありますか
- ① 米欧回覧実記を読む会
- ・ 原典講読 (十九)
- ・ 英文訳講読 (八)
- ② 歴史部会
- ・ 日本の近現代史 (二十八)
- ③ 現未来部会
- ・ 現代及び未来の問題 (十三)
- ④ その他
- ・ 歴史ツアー (十八)
- ・ 映像の会 (七)
- ・ 新年懇親会 (五)
- ・ 国際交流の会 (七)
- ・ 特別研究会 (十)
- 二 今後の重点的な活動について
- ① 上記のような研究会(内部向け) (十八)
- ② セミナー開催(外部向け) (十)
- ③ 若い世代に近代史を(十二)

(文責) 山田 哲司  
(写真) 橋本 吉信

平成18年度・活動報告

	全体例会	実記・英訳読む会	現未来部会	歴史部会	青年部会
2006 4月	40回例会(4/22) NPO総会 DVD試写会 「岩倉使節団の米欧回覧」	実記読む会(4/6) ハーグ・ロッテルダム・ライデン アムステルダム ★英訳読む会(4/13)			「大久保利通のちょっと面白い話」 大久保利泰氏 (4/7)
5月		実記読む会(5/10)ハリの記 ★英訳読む会(5/25)	「日本のあり方を考える」 泉三郎氏 (5/16)		「ロンドン市の記」(5/12)
6月		実記読む会(6/8)プロイス国総説 プロイス国西部鉄道の記 ★英訳読む会(6/22)		「大久保利通と米欧回覧」 勝田政治氏 (6/14)	
7月	41回例会(7/29) 「ポスト小泉と岩倉使節団」 橋本五郎氏	実記読む会(7/6) ハリの記 4・6 ★英訳読む会(7/20)	「日本アイデンティティシリーズ」 外交問題・外交政策 塚本弘氏 (7/18)	「新渡戸稲造と士魂」 石川直義氏 (7/20)	運営会議 (7/7)
8月					運営会議 (8/11)
9月		実記読む会(9/7) ハリの記 3・7 ★英訳読む会(9/21)		「天皇制と道教と祭天の古俗」 小野博正氏 (9/19)	現代語訳を読む会 (9/1)
10月		実記読む会(10/5) 第百回達成 記念ウヰェブ懇親会 ★英訳読む会(10/12)	「日本のあり方を考える」 まとめ (10/26)	「岡倉天心と山本七平」 泉三郎氏 (10/20)	合宿(10/28~29) 三浦海岸のホテルにて 講演・DVD鑑賞・ディスカッション
11月	「国際シンポジウム」11/23~25 11/23 セミナーⅠ・DVD上映会 11/24 セミナーⅡ・Ⅲ・懇親会 11/25 公開フォーラム	実記読む会(11/9) ハリの記 2・5 ★英訳読む会(11/16)			
12月		実記読む会(12/7)忘年会 ★英訳読む会(12/21)		「東京裁判史観」 永富邦雄氏 (12/8)	「私の読書」を披露 (12/1)
2007 1月	42回例会(1/17) 「新年懇親例会」 テーマ「デンマーク」	実記読む会(1/11) ベルリン府総説 ★英訳読む会(1/25)			
2月		実記読む会(2/8) デンマーク国の記 ★英訳読む会(2/22)	「政治家に聞クシリーズもの」 第1回 藤井裕久氏		
3月		実記読む会(3/8) ベルリンの記下 ★英訳読む会(3/22)	「日本のあり方を考える」 藤井裕久氏 (3/28)	「石橋堪山の小日本主義」 小松優香氏 (3/15)	

## 平成18年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支計算書

平成18年4月1日から  
平成19年3月31日まで特定非営利活動法人  
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入	160,000	
会費収入	878,000	1,038,000
2 事業収入		
講演会事業収入(部会活動収入含む)	1,225,360	1,225,360
3 国際シンポジウム特別会計		
特別賛助金(国際交流基金他)	4,920,000	
参加費他	2,072,147	6,992,147
4 その他収入		
書籍、資料等販売手数料	31,400	
利息収入	124	
薩摩旅行代金	25,702	57,226
当期収入合計(A)		9,312,733
前期繰越収支差額		910,106
収 入 合 計(B)		10,222,839
II 支出の部		
1 事業費		
案内郵便費	68,500	
会場費(飲食代含む)	900,518	
講師お礼・車代	83,885	1,052,903
2 会報事業費		
印刷費	244,125	
郵送費	163,903	408,028
3 管理費		
電話通信費	537,387	
会議費	139,900	
事務費	344,410	1,021,697
4 国際シンポジウム特別会計		
会場費	909,189	
旅費、謝礼	1,948,470	
印刷費、事務費、未払い金他	4,134,488	6,992,147
当期支出合計(C)		9,474,775
当期収支差額(A) - (C)		△162,042
次期繰越収支差額(B) - (C)		748,064

(単位：円)

## 平成18年度 特定非営利活動にかかる事業 会計貸借対照表

平成19年3月31日現在

特定非営利活動法人  
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金	3,136,012	
流動資産合計		3,136,012
2 固定資産		
固定資産合計		
資産合計		3,136,012
II 負債の部		
1 流動負債		
未払い金	2,387,948	
流動負債合計		2,387,948
2 固定負債		
固定負債合計		
負債合計		2,387,948
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		910,106
当期正味財産増減額		△162,042
正味財産合計		748,064
負債及び正味財産合計		748,064

(単位：円)

★報告★  
グローバルジャパン特別研究会  
◇「環境問題と日本人」



高坂節三氏  
(5月10日)

高坂氏は、京都学派の重鎮正頼氏を父に、政治学者正堯氏を兄にもち、伊藤忠商事の常務から栗田工業の会長を務め、経済同友会でも憲法問題などで活躍された、アカデミックな素養と実業的キャリアを併せ持つ人物。

今日の地球がかかえる環境・資源問題を、成長の限界・宇宙船地球号、持続可能な開発などのキーワードを使って概観し、西洋的進歩の思想の限界を指摘された。

そして、京都学派の徒らしく西田幾多郎の「永遠の今」の概念からこの問題を捉えようとする。そこでは日本文化センターの安田喜憲教授の多神教、アミニズムの復興論もとりあげられ、ギリシャ哲学での主要概念ヒブリスにも共通する「傲慢」を避けるところに解決の道を見いだそうとする。

「われわれの子孫に何を残せるのか」、それには「鎮守の森」や「モッタイナイ運動」のような地道な運動が必

要であり、その根底には西田幾多郎の次のような言葉が重要だと日本の思想の重要性を指摘、締めくくられた。「人は想起作用によって全過去を現在とする事が出来、同時にまた想像作用によって、未来を現在とする事が出来る」、つまり「意志は創造的であるが、単に前に進むのではなく、同時に後ろにも帰るのである」と。

◇「科学技術・教育、そして日本文化」



石田寛人氏  
(6月12日)

石田氏は、東大の原子力第一期生としてスタートし、次いで科学技術庁の事務次官にまで登り詰め、一転してチェコスロバキア大使、さらには金沢学院大学の学長として地方に根をおろし、若者の教育に尽力され、趣味の歌舞伎、文楽の面では「子供歌舞伎」を作演出するなど実に多方面に活動されている。

したがって話は科学技術から始まりとどまるところを知らない状況だった。まず科学技術について競争至上主義の弊害が一方にあり、進歩に対する保守的な考えの蔓延が一

科目	金額 (単位: 円)	
I 収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入	100,000	
会費収入	1,000,000	1,100,000
2 事業収入		
講演会事業収入	1,500,000	
部会活動事業収入	600,000	2,100,000
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入		
民間助成金収入		
4 寄付金収入		
5 基本金運用収入		
基本金利息収入		
当期収入合計 (A)		3,200,000
前期繰越収支差額		748,064
収入合計 (B)		3,948,064
II 支出の部		
1 事業費		
講演会事業費	1,200,000	
部会活動費	600,000	1,800,000
2 会報事業費		
印刷費	250,000	
郵送料	150,000	400,000
3 事務費		
電話通信費	350,000	
会議費	150,000	
事務費	350,000	850,000
当期支出合計 (C)		3,050,000
当期収支差額 (A) - (C)		150,000
次期繰越収支差額 (B) - (C)		898,064

平成19年度 予算書

平成19年度 特定非営利活動にかかる事業  
会計収支予算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

平成19年度 事業計画書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで 特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

事業実施の方針 平成19年度は、事業の中心を講演会、部会活動、会報(ニュース)発行の3本柱とする。

		実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
講演会	講演会年3回 交流・交歓会年1回	4月、7月、10月、1月	日本プレスセンター他	各回8名	一般市民 講演会(各回)80名 交流会90名	600 600
部会	研究及び啓発活動	部会により、 毎月又は年4回	国際文化会館他	各部会3名	一般市民 各回25名	600
会報(ニュース)	会の活動に関する会報の発行により研究・啓発を行う	季刊(年4回)		3名	一般市民 各号800部	400
国際シンポジウム及び同関連事業	昨年度開催した国際シンポジウムに関連する成果物の整理出版、関連講演会、研究会を実施する	4月以降、9月頃まで	国際文化会館他	15名	一般市民 延600名	支出は前年度計上済み

注) 部会とは、「実記」を読む会、英文「実記」を読む会、歴史部会、現未来部会、国際部会、青年部会、総務部会の7部会である。

メーリングリスト

「岩倉ML」登録のすすめ

会員に普及してきたメールを連絡および双方向コミュニケーションの手段として活用する試みが、楠木氏および相澤氏の尽力によって、本格稼動する。それは、ホームページでは十分に果たすことができない「お知らせ」や「サロン(会議室)」の機能を補完するメーリングリスト「岩倉ML」の開設である。

メーリングリストとは、参加者のメールが登録者全員に配信されるサービスのことであり、グループ間の連絡や意見交換に利用されるものである。「岩倉ML」では、各部署に選出を依頼している「通信員」を窓口として、配信された部会案内や報告および出欠などの返信ができる。また、登録したメンバー双方のコミュニケーションの「管理者」には、幹事の足立光正氏にお願いしている。ルールづくりや運営方法の詳細は、今後検討されていくこととなるが、皆様の積極的な関与を要請する。

当初登録者は、約百人の月刊「メルマガ」配信者が中心となるが、未登録の会員の参加を歓迎している。希望者は、事務局までメールで申込みください。登録取り消しはいつでも可能である。



実記を読む会報告

連絡 桑名 正行

Tel&Fax 03-3642-9570

mkuwana@nifty.com

■第七七回

五月十日、出席者十五名。第六十一巻ロシア国総論を橋本氏が報告。この巻は「米欧列国ヲ歴聘シテ深く遐陬ニ入りシハ、露西亞國ヲ以テ最トス、…」で始まる。使節団一行



実記を読む会 (5月10日)

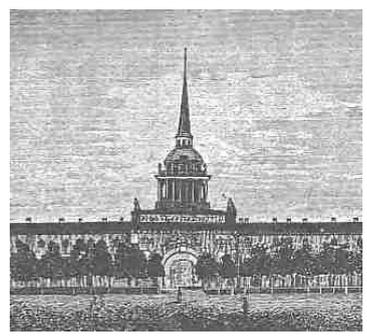
は、アメリカ、イギリス、パリ、ベルリンの文化花咲く地を歴遊の後、今見渡す限りの「荒寒不毛ノ野」を走り続け、この「漠野茫茫」「森林棒棒」たる景觀に、文明開化とは何かを考えさせられる。ロシアは「…猶新進ノ青年ヲ以テ接遇セラルニ過キストナリ、此ニ其國勢ヲ略叙セン、」までの詩「私?」情豊かな久米の序言を受けての橋本氏の包丁捌きが素晴らしい。漢字・カナ混じり十七頁の縦書き文が、A四・八頁の読み易い横書き現代文に整理整頓され

た。「使節団旅程」から「領土拡大政策」までの八項目、特に「国勢概要」は「人口」から「外国貿易」まで十一条に細分、一目瞭然とした。加えて、「ロシア史」、「ロシア正教」、「ロマノフ王朝系図」、「ロシアの膨張」、「南下政策」それぞれテーマに最新の資料を添付。さながら「簡約ロシア小辞典」の趣あり、続く四巻へのよき手引きとなる。「ソ連」と言う言葉が消えて十五年、今又プーチン「ロシア」の時代に、百三十年前の久米の「ロシア」を読む、好遇といふべきか。本巻も、報告者に人を得た。

■第八八回

六月十四日、十五名が出席。第六十三巻サント・ペテルブルグ市の記・上を三原氏が報告。

一八七三年四月一日(火)、使節団一行は、露国外務長官コルチャコフ氏を表敬訪問、あと同省アジア局長モーヒー氏来訪あり、「兼テ前年皇太子『グランドデューク』(亜歴山大殿下、日本国ニ遊歴ノトキ、厚キ款待ヲウケラルコトヲ謝セリ)……とあるが、正しくは皇帝四男アレクセイ・アレクサンドロヴィッチ大公である。皇太子『グランドデューク』大公には、このあと四月九日に謁見している。久米の記述に混乱誤りがある、と指摘された坂内知子氏(当会員)の論評を、三原氏より紹介



サント・ペテルブルグ海軍省 (『実記』)

された。最北最遠のロシアで、久米もさすがに疲れたか、それともペテルスブルグについては、記述再吟味する補佐不在か、三原氏の熱のこもった解説が続く。

「府中に高塔ニアリ」……「共ニ府ノ標的トナスヘシ」(一)ネヴァ川北岸要塞内の教会堂の尖塔、(二)南岸、旧海軍省の塔、(三)冬宮、現在のエルミタージュの南広場にあるアレキサンドルの円柱。往訪歴のある三原氏は、大久保氏(貴重な資料ご持参)の応援(一)を得て、三つの高塔の写真と版画の同定を試み、はてはエルミタージュ美術館のアレコレに話が弾んだ。四月二日「水」、農業博物館見学。「漁業養漁ノ術ハ、露國ノ進歩、独逸ノ上ニイツ、」。四月三日、アレクサンドル二世に拝謁。帝室歳費(予算?)はオーストリア帝の三倍、英国王の五倍。早晚、革命の必至を予感させる。四月五日、ネヴァ側の氷の上を渡って、ペトロパ



報告する三原氏(左) 写真資料の閲覧(右)

ブロフスク要塞訪問。函館五稜郭に似た星型砲台。「朝ニ臨ミテハ帝トナリ、寺ニ入りテハ『ポーブ』トナリ、…」以下、宗教・信仰・政治に係る久米の二頁に及ぶ所論を、三原氏が音読。ヨーロッパの為政者は要するに宗教・信仰を政略に援用しているだけではないか?とも受け取れる筆刀両断の論趣。四月六日、「午後三時ヨリ、クラウンデューク、コンスタンチン公ニ謁ス、」。これも、急遽変更となり、実際は「プリンス・オルデンブルグスキー」が接見した。三原氏の臨場感溢れる解説で、サント・ペテルブルグが身近になった。

(文責) 桑名 正行  
(写真) 橋本 吉信

### 英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

iwasakiyozo@kbd.biglobe.ne.jp



月一回「英訳『実記』を読む会」を開催、毎回担当を決めてテキストの英訳『実記』を朗読、新たに追加された注の和訳、解釈の疑問点、関連情報の紹介などを行っている。

#### ■第四十八回

四月十九日(木)に開催。出席者は十二名。第二巻イギリス篇の第三十三章ニューカッスル市の記(一)を読み進んだ。市内ではツイード織物工場の見学、メルローズ教会訪問、アームストロングの工場で製鉄、銃砲製造工程などの見学をしている。久米のカタカナ語は時とすると英訳者でも同定が難しいことがあるように、ここでは「タイン」川が「マイル」川と書かれている。これは音声的にはそれほど紛らわしくないのですが、手書き原稿の「ン」が「ル」に見えたのかもしれないという新しい示唆もあった。

#### ■第四十九回

五月十級日(木)に開催。出席者は十名。第二巻イギリス篇の第三十三、三十四章ニューカッスル市の記(一)、(二)を朗読した。中でも興味をひいたのは、市内のタウンホール

の昼食会の描写である。着飾った婦人連が壇上に並んで、使節団の食事の様子を眺めているという記述があるが、その光景が推測できるようなマネーの「A Bar at the Folies-Bergere」の絵の紹介がされた。ゴスフォースの炭鉱では切羽までもぐり、採炭の方法や英国の石炭業を論じている。さらに「タイン川」の旋回橋(久米はめがね橋と書いていまる)架橋工事現場を見学し、河岸にある製造工場の中から銅精錬工場を訪ね、その工程や銅合金の用途解説をしている。(文責) 小林養丈

### 歴史部会報告

連絡 小野 博正

hiro-ono@hyper.ocn.ne.jp



五月の歴史部会は、会員の田邊康雄氏による『明治のエンジニア教育』を聴講し、質疑応答を行った。講師の田邊氏は三菱化成(現三菱化学)を定年退職後、中小企業などの経営診断と技術コンサルタ

ントの会社を起されて、「生涯現役エンジニア」を提唱されている。一方、幕末・明治の工学史研究家でもある。更に、曾祖父田邊孫次郎は幕末の軍事エンジニア(大砲)、祖父田邊朔



タイン川とニューキャッスル(「写真・絵図で甦る堂々たる日本人」)

郎は明治の土木エンジニアとして、有名な琵琶湖疏水工事を設計・施工、父親田邊多聞は大正の機械エンジニア(鉄道車両)、ご本人は昭和の化学エンジニア(触媒)である。さらにご子息三名もエンジニアという五代エンジニアの家系で、叔父の田邊太一は岩倉使節団に一等書記官として参画している。

米欧回覧実記の中で、久米が米欧各国の工場見学の折に、精緻な観察の上に、詳細なる報告をしている。これが、明治以降、わが国の科学技術の発展や様々な産業創出にどのような影響を与えてきたかは当会としても、大変に興味のあるところである。

田邊氏によると、使節団は(国力なくして条約改正は実現しない、そして、その国力は工業力だ)と回覧後に見定めて、伊藤博文の英国人脈で、スコットランドよりダイアー氏を招聘し、工部大学校

### 書籍案内

歴史民俗資料学叢書2

「財界人の戦争認識」

村田省蔵の大東亜戦争

半澤健市著

神奈川大学

二〇〇七年三月刊

著者は当会の幹事(歴史部会担当)をながく勤めた会員、五年前より神奈川大学の大学院で中村政則教授について学び、この春めでたく博士号を取得した。本書はその博士論文を基に書き上げられた作品であり、評論家の森田実氏が「すぐれた研究書であり、魂のこもった力作である」と評したとおり、村田省蔵の四千枚(原稿用紙)に及ぶ日記を読み解いて戦争時の財界人の苦衷を映し出した渾身の力作である。

「びわ湖疎水にまつわる、ある一族のはなし」  
田邊康雄著  
一九九一年九月刊

(一)で「ある一族」とは、工部大学校(後の東京帝国大学工学部)の第一期生だった田邊朔郎(日本近代土木の祖、エンジニア、東京大学、京都大学教授)のことで、著者はその孫にあたる。なお、岩倉使節団の書記官長ともいふべき、一等書記官の田邊太一は朔郎の祖父にあたり、その一族の多彩な人材が紹介されている。

なお、この二著は非売品のため主要図書館にしか献本されていないと思われるが、本会には寄贈分があるので、閲読希望者は事務局まで申し込まれたい。

〈工部省〉を一八七七年に創設する。そこに米欧から各科目別のお雇い外国人を招いて、教育に当たるが、当時の学生の殆どは武士の子で、教育は技能者として現場で、真つ黒になつて履修することをお願いされた。授業は英語で行われ、明治十四・十八年の間の卒業生は二百六名で、帝大理科大学(文部省)の二倍であった。明治の工学は薩長

政府が推し進めたが、それを利用した学生は殆ど、旧幕臣であり、明治政府は旧幕臣の人材を上手に利用したとも言える。然し、最初は武士の子である学生にとつて、現場の仕事は大変であったが、その卒業生が明治以降の産業界をリードしていくことになる。次回の歴史部会は八月三日、詳細は八頁に掲載。(文責) 小野博正

特定非営利活動法人  
「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。  
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。  
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。
- 会員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例会** 年に4回くらい全体例会をもちます。
- 部会** テーマ別に読む会、歴史、現未来、総務部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会費** 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には準会員(年会費3,000円)の特典もあります。
- 事務局** 「米欧亜回覧の会」(2007年7月17日より)  
〒170-6045 東京都豊島区東池袋3-1-1  
サンシャイン60 45階  
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp  
TEL:03-5979-2273 FAX:03-5979-2552
- 入会申込**  
入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。  
なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。  
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ

メッセージ・活動と内容・岩倉使節団・米欧回覧実記・会員のページ等  
書籍・DVD案内も掲載

<http://www.iwakura-mission.jp>



<催し案内>

2007年7月～9月の予定です

☆全体例会

日時：7月14日(土) 13:00～  
一部 会務報告 13:00～13:50  
講演 14:00～17:00  
二部 懇親会 17:20～19:30  
\*講師の保阪氏も出席されます

講師：保阪正康氏

\*ノンフィクション作家。評論家。日本近現代史(特に昭和史)の研究者、延べ4,000人の当事者に取材したことは有名。

場所：一部 国際文化会館講堂  
東京都港区六本木5-11-16  
二部 華珍楼(鳥居坂下)

会費：一部 3,000円 二部 5,000円

☆実記を読む会

日時：7月12日(木) 18:30～21:00  
9月13日(木) 18:30～21:00

場所：国際文化会館

会費：1,000円

☆英訳実記を読む会

日時：7月26日(木) 18:30～21:00

場所：財)統計研究会会議室

港区新橋1-18-16 日本生命ビル7階

会費：1,000円

☆歴史部会

日時：8月3日(金) 18:00～21:00

場所：国際文化会館Dルーム

テーマ：ある小国のサクセス・ストーリー

ールクセンブルク大公国の場合

講師：吉野忠彦氏

元 日本興業銀行ルクセンブルク社長

現 駐日ルクセンブルク大公国名誉副領事

会費：1,000円

☆関西支部例会

日時：7月14日(土)

場所：大阪弥生会館

編集後記

◇発行日の遅れが前号まで続いていましたが、本来の発行日程に近づけることができました。そのかわり、前号との間隔が短く、部会報告の件数が少なくなってしまうました。前号で二回分を掲載した関西支部は、今号の報告例会がありませんでした。

◇前号で掲載したように、発足から二〇〇六年の国際シンポジウムまで、間断なく事業を計画し成し遂げてきました。NPOとなって三回目の総会も無事終え、新たな時代にむけて今後何をするのか、また、運営のあり方について全員で考える節目の時期にあります。

◇事務局を都心に移すことを実現する第一歩として、連絡事務を「バーチャルオフィス」に移転することになりました。バーチャルの本義は、事務の代行依頼ということではなく、会員の担当者が一堂に会さなくても事務局の役割を果たすことにあります。即ち、実作業を分担する会員の協力と連絡体制を作り上げていくことが今後の大きな課題となります。

◇本来は会員がすべき事務作業を、長年にわたって担っていた田中さん、伊ズミ・オフィスの田中さん、佐藤さんに御礼申し上げます。(N)